

# 第3回 新聞発表 諫早湾干拓事業と干潟の保全

2010/5/12

井上・川島・其田・横山

# 概要

---

- ▶ 1. 記事について
- ▶ 2. 諫早湾干拓事業
- ▶ 3. 考察
- ▶ 4. 提案



# 諫早長期開門へ

## 検討委が最終協議

国営諫早湾干拓事業(長崎県)で、潮受け堤防排水門を開けて行う調査の是非を検討する農林水産省と与党の検討委員会が、1年間以上開門する方向で最終協議を始めた。長期開門は1997年の湾閉めきり以来初めて。赤松広隆農水相は早ければ数日中にも検討委から報告を受け、開門の決断を表明することとしている。11面に関係記事「止まらない大型公共事業」は、大きな転機を迎えた。の典型と言われ、開門の是非 検討委は、赤松農水相の指で地元を対立させた事業 示で3月に発足、27日も会合

を開いている。座長の郡司副大臣が現在行われている環境影響調査(アセスメント)を「中長期開門」を前提にしたものに切り替える案を、与党3党から集まった委員に示す方針だ。協議を受け、郡司副大臣は近く報告書をまとめ、赤松農水相に提出する。座長案では、潮受け堤防が

有明海に悪影響を与えている可能性を指摘。水門の流量や流速に制限を設けたり、1年以上にわたって堤防の排水門を部分的に開ける調査が必要とした。環境アセスは、来春までかかる見通しだ。開門した際に周辺海域や土壌に出る影響を調べる。赤松農水相は14、15の両日、現地を視察。「地元の理解を得たい」としており、検討委から報告書を受け取った後、近く現地入りして開門に反対してきた中村法道・長崎

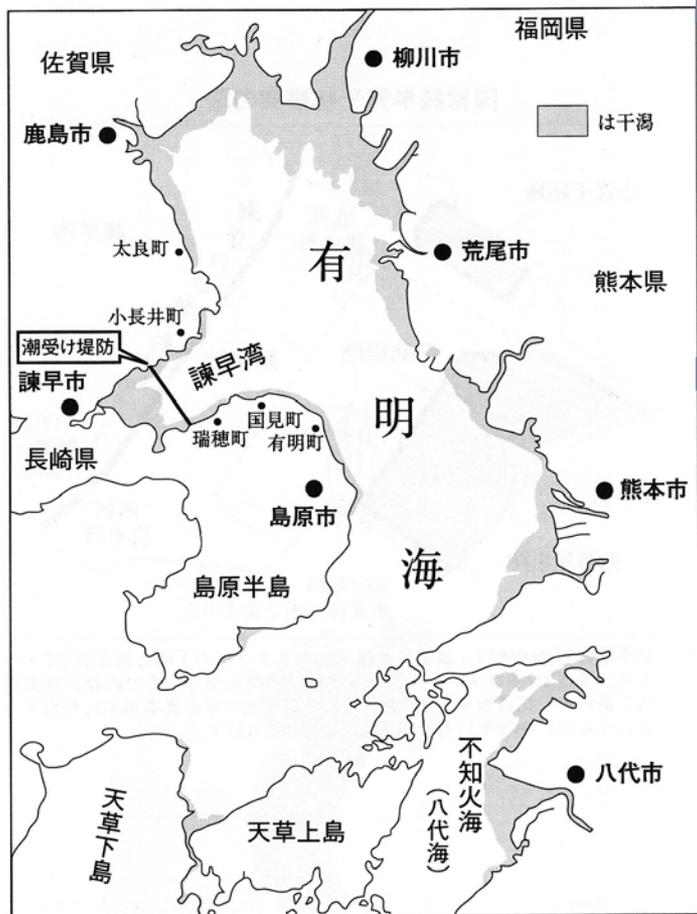
県は防犯を主目的に89年に善工された。97年4月に湾の壁が総延長7.5にわたって鋼鉄製の板で9.3枚によって閉められた。湾内でムツゴロウなどが姿を消した。県は防犯を主目的に89年に善工された。97年4月に湾の壁が総延長7.5にわたって鋼鉄製の板で9.3枚によって閉められた。湾内でムツゴロウなどが姿を消した。

諫早湾干拓事業 湾全体を閉めきり、水田をつくる構想が1950年代に浮上した。目的はその後、水源確保や畑作りに変わり、最

# 1. 記事

- ▶ 長崎県諫早湾を閉め切り、水田を作る計画が1950年代に提案され、その後、水源確保、畑づくり、防災と目的を変えながらも、1997年4月に鋼鉄の板で閉め切られた。
- ▶ 湾の閉め切りによって、湾内にあった干潟は消滅。
- ▶ 漁獲量も不安定になり、湾の閉め切りがもたらした影響について長年、議論がされてきた。
- ▶ 佐賀地裁が常時開門を命じ、ついに政府も長期的な開門の決定を。

## 2. 諫早湾干拓事業



(注) 旧町名もふくむ。

### 有明海

干潟面積: 20712ha

(全国の干潟面積の40.3%に相当)

日本一の干満差(6m)

### 諫早湾

流域面積: 328平方km(有明海の4%)

- 低平地のため諫早湾沿岸は高潮被害を受けやすい地域。
- 土粒子が堆積しやすい地形のため、排水改良と農地造成のために数百年も前から干拓を繰り返してきた。

Source:『宝の海を取り戻せ 諫早湾干拓と有明海の未来』11 ページ

## 2. 諫早湾干拓事業

事業費：2530億円(2008年3月末完成)

計画対象地域：諫早市、雲仙市

計画面積：干拓面積約870ha(農用地面積約672ha)

営農：41経営体による露地野菜、施設野菜、飼料作物など

＝事業の経緯＝

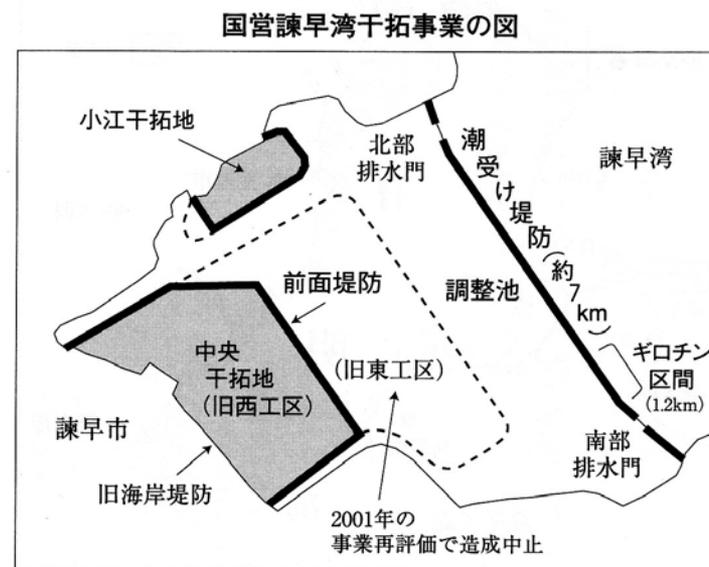
1986年：事業着手

1997年：潮受堤防の閉め切り

2007年：堤防道路供用開始

2008年3月：事業完了

4月：営農開始



(注) 総事業費約2500億円、諫早湾奥部3550ヘクタールの干潟と海を高さ7メートル、全長約7キロメートルの潮受け堤防で閉め切り、その内側に前面堤防を築いて干拓農地を造成。淡水化した調整池の水を農業用水に利用するというもの。1989年11月事業着工、2008年3月終了。

## 2. 諫早湾干拓事業

---

### 閉門後の被害

#### ▶ 潮流の弱まり

→ 海中への酸素供給を弱め、海底のヘドロ化を進行

#### ▶ 調整池の水質悪化

→ 植物プランクトンが発生し常に赤潮状態

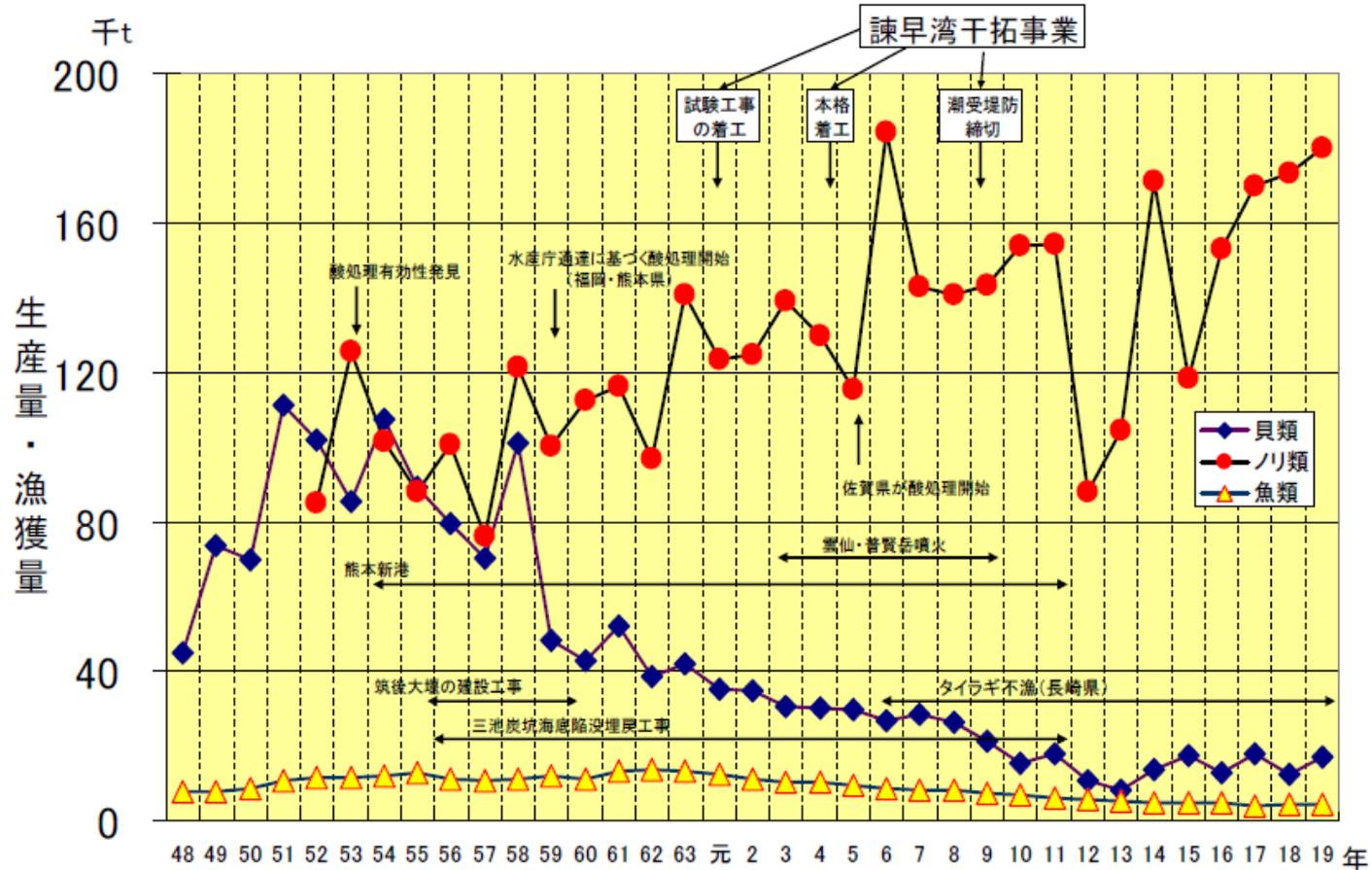
年間約4億トンの汚濁水が海へ放流

(負荷量の占める割合は有明海全体の流入負荷の2%)

#### ▶ 干潟の消失

## 2. 諫早湾干拓事業

### 有明沿岸4県の漁獲量の推移



(出典:平成13年9月20日開催のノリの第三者委員会中間報告書資料、「農林水産省 農林水産統計年報」) ※暦年で整理

## 2. 諫早湾干拓事業

---

### 干拓事業の効果

#### ▶ 防災

- 洪水被害の軽減&排水不良の改善  
→ 1億700万円の被害から300万円の被害へ
- 高潮被害の防止

#### ▶ 農業

- 環境保全型農業
- 背後地で裏作や転作が拡大

#### ▶ 新たな淡水系の生態系

- 約240種の植物、約300種の昆虫類等が生息。
- 鳥獣保護区に指定

### 3. 考察

---

- ▶ 開門はするべきではない
- ▶ 護岸工事費用: 681億円(長崎)

#### 開門後に想定される被害

- ▶ 住民
  - 洪水被害や排水不良の発生
- ▶ 農業
  - 新たな農業用水確保の必要性、塩害の発生
- ▶ 漁業
  - 調整池からの淡水流入による塩分の低下、濁りや浮泥の発生や潮流の変化によって沿岸漁業への悪影響

## 4. 提案

---

### ▶ しかし...

だからといって、干潟の破壊を認めて良いわけではない。

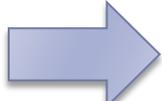
 諫早湾のような失敗は繰り返さない為に。

### ▶ 「干潟の特性」

多様性を育む地

不安定な状態(人工では作り出せない)

浄化能力

 ただ保護・管理するだけでは、負担が掛かるだけ...

### ▶ 干潟の特性を活かした保護方法とは何か。

# 4. 提案

## ▶ 日本国内の干潟

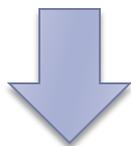


およそ145ヶ所

## 4. 提案

- ▶ ラムサール条約で保護されている湿地

37ヶ所



まだまだ保護されていない  
干潟が多い

...(例) 沖縄県泡瀬干潟

○ラムサール条約湿地 位置図



ラムサール条約湿地
登録湿地数 37ヶ所
総面積 131,027 ha

## 4. 提案

---

- ▶ 干潟の浄化作用の価値

 下水処理場に見立てて考える

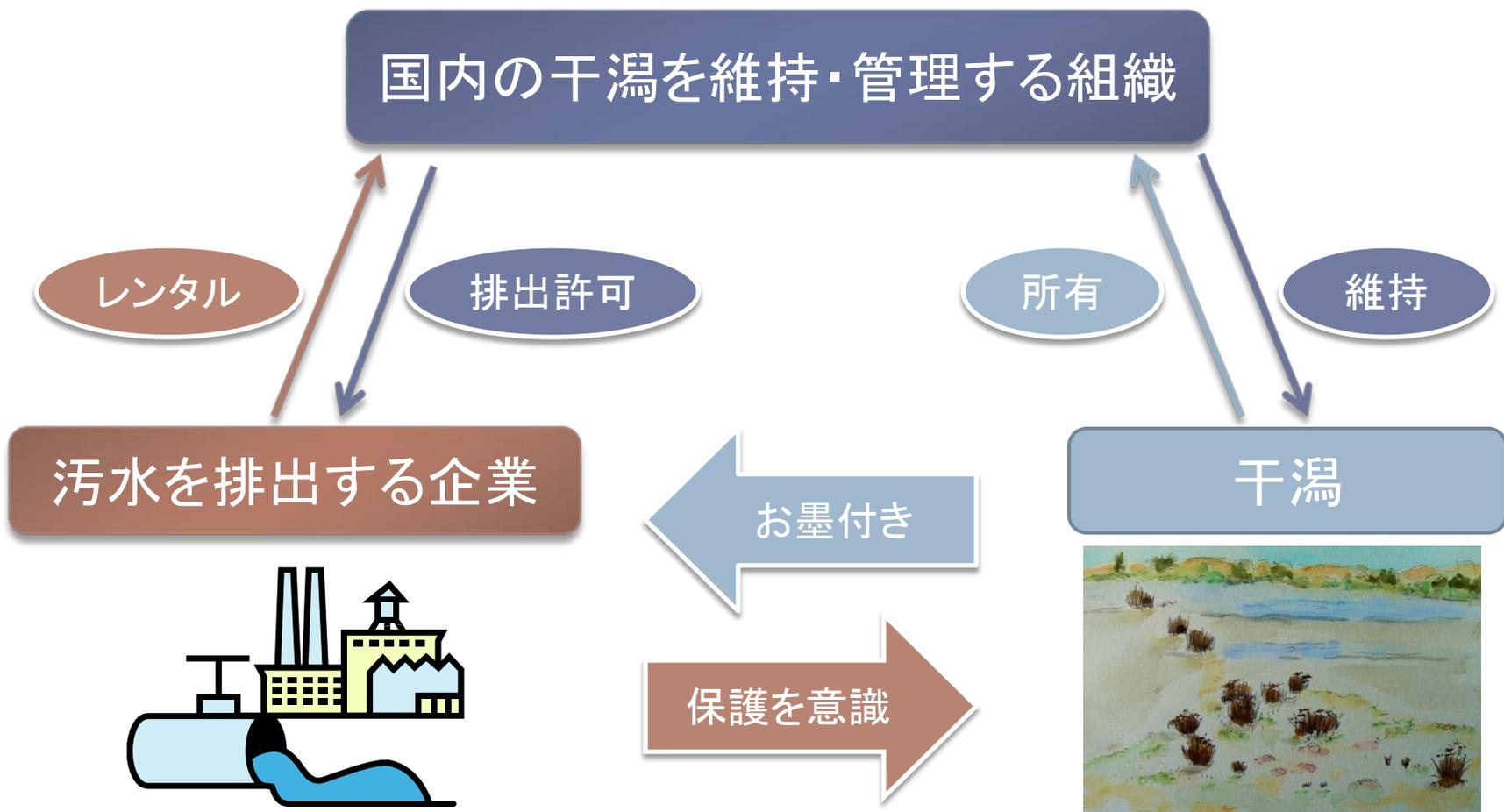
- ▶ 例) 一色干潟(10平方km)≒台東区
  - ・1日当たりの最大処理水量: 75.8千t
  - ・計画処理人口: 10万人
  - ・処理対象面積: 25.3平方km

 建設費: 122.1億円  
維持管理費: 5.7億円

- ▶ ※化石エネルギーを用いた下水処理施設であることに注意

## 4. 提案

### ▶ 「干潟の浄化機能＋排出権」



## 4. 提案

### 利点

- ▶ 干潟の保護に対するインセンティブが高まる。
- ▶ 漁業が干潟の維持に。
- ▶ さらなる開発をストップ  
 自然地域の保護
- ▶ 企業のイメージアップ

### 課題

- ▶ 企業の負担額の決定
- ▶ 借りた企業に対する現実的な見返り。

## 4. 提案

---

### ▶ 課題の解決案

 環境税の一環として、「排水税」を導入

- ・干潟を借りた企業に対して、排水税における負担減
- ・小分けにして金融商品化→市場も見据えて

 事業を展開する際の基準へ

- ・公共事業などの入札参入資格
- ・銀行融資の際の条件・プラス要素

## まとめ

---

- ▶ 干潟の保全は重要

多様な生物環境、微妙な安定のもとで成り立つ自然

➡ これ以上の自然状態を破壊しない為にも。

- ▶ ただ保有するだけではなく、ちょっとした利用法はないか

➡ 具体的な排出権としての運用

# 参考資料

---

- ▶ 宝の海を取り戻せ 諫早湾干拓と有明海の未来  
2008.4.10 松橋隆司 新日本出版社
- ▶ 諫早湾干拓事業の効果と潮受堤防排水門の開門による影響 平成22年1月(長崎県)  
<http://www.pref.nagasaki.jp/gyousei/kensyu/isakan/isakan.pdf>
- ▶ 「諫早湾干拓事業の概要」(諫早市農林水産部干拓室)  
[http://www.city.isahaya.nagasaki.jp/of/06\\_nourin/03\\_kantaku/kantaku/img/gaiyou.pdf](http://www.city.isahaya.nagasaki.jp/of/06_nourin/03_kantaku/kantaku/img/gaiyou.pdf)
- ▶ 調べます！日本全国の干潟  
<http://www.biodic.go.jp/higata/>
- ▶ ラムサール条約と条約湿地(環境省 自然環境局)  
<http://www.env.go.jp/nature/ramsar/conv/2-3.html>
- ▶ 諫早湾干拓事業から環境アセス制度の問題点を考える  
<http://www.h3.dion.ne.jp/~vakira/newpage6.htm>
- ▶ 干潟域の物質循環と水質浄化機能  
[http://www.airies.or.jp/publication/earth/pdf/11\\_2-03.pdf](http://www.airies.or.jp/publication/earth/pdf/11_2-03.pdf)